

2018/3/15

柏の景気情報（平成30年2月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成30年2月分）

○ 調査期間 : 平成30年2月26日 ~ 平成30年3月6日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	72	46.2%
建設	44	21	47.7%
製造	33	15	45.5%
卸・小売	43	22	51.2%
サービス	36	14	38.9%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成30年2月の調査結果のポイント】

《業況DIは再び悪化。先行きは緩やかな回復見込むも依然慎重な見通し》

○2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.2(前月水準▲15.2)となり、マイナス幅が7.0ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲40.9(同▲47.6)、建設業▲14.2(同▲19.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲20.0(同△20.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲7.1(同±0.0)である。

【建設業】からは、「新規工事よりも改修工事が多い。先行きの見通しは徐々に明るくなっている」(電気工事業)、「いぐさの香りは集中力の上がる効果があり、畳の部屋で勉強すると集中力がアップし、成績向上との結果を北九州大学森田教授が提唱している。受験生頑張れ！」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「年度末を感じさせない売上だった。小さな設備投資は迷わず進めていけるが、大きな設備投資をする仕事量の確保が出来ていない」(印刷業)、「最近、健康・医療・健康食品等の話題が目につく。経済の流れの関心が生命の守りに向かっているように思える。業種によって影響あり」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「買い回り品では16号線アリオ開店がボディブローのように効いてきている。松戸の市場跡にイオン系SCが出来ると、光ヶ丘から直線距離で2~3kmしか離れていないので開業したらかなり不安」(婦人・子供服小売業)、「平年気温より低く、衣料品及び住居防寒関連は冬物在庫が少なくなり、前年を下回る結果となった。バレンタインは低単価商品を拡大した結果、前年比150%の推移となった。店全体では前年を上回る状況」(各種商品小売業)、「船橋・松戸も駅前大型店が次々閉店。早くそごう跡の情報が欲しい」(各種商品小売業)、「バレンタインはSNSでのPR成果があり昨年より売上増」(菓子・パン小売業)、「資金繰りはメインバンクなど短期的に借入をすることで仕入のタイミングをよくすることができ好転につながっている。今後の景況で危惧される要因はメイン顧客をはじめとして弊社の居る柏公設市場の利便性を継続して謳っていけるか、未だ予測していない隙間マーケットに参入していけるかなどが挙げられる。対策として公設市場全体のPR・社内外でアイデアを募っての新商品開発やOEM商材の開発に注力していく」(農畜産物・水産物卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「マクロに見た場合、IT化に沿った生産指数の高騰など大手企業の好調続くも一部企業には労働制の問題(賃金高騰・残業)など多く、病(やまい)多しの動きに。金融市場の不安(株安)が消費マインドに連なる動き警戒。市内飲食店など特色ある内容に特化していかないと。労働制の問題の壁に当たるか？」(投資顧問)、「宅配業者の値上げは、徐々に受入れられつつあるが、一般貨物運送における適正な運賃・料金については、運送約款の改正で附帯業務にも料金設定ができるが、まだ荷主の理解を得るところまではいっていない」(一般貨物自動車運送業)、「売買・賃貸ともお客様からの問い合わせは活況。それに伴い契約数も増加。物件不足で業者が高値で購入している」、「住居系賃貸は現在繁忙期で弊社物件は満室状態をキープ。事業系(テナント)の業績も良好。賃料については下落圧力も上昇圧力も感じられないので安定状態」(不動産賃貸・管理業)、「昨年と比べると売上が減っている。今後良くなる事がないと思って経費を見直している。お客様がお金を使わなくなってきた」(旅館業)などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「大きな物件が重なり売上増となったが、人手が足りず困っている。年度末に向けて忙しい時期だが、高齢により引退する人や会社を辞める人も増えている。若い人は建設現場を嫌い、なかなか人手不足は解消しない」(職別工事業)、「人手が段々足りなくなってきた。募集しても反応なし」(職別工事業)、「人手不足はなお増して深刻な状態続く。働き方改革の影響か」(ソフトウェア業)との声が寄せられた。

◎仕入価格高騰

各業種より、「国内外の設備投資が相変わらず堅調なため部品の入手性が依然改善されない。部品収集が不安定な中で生産計画が立てられず苦勞している」(機械・同部品製造業)、「食品は昨年から続いている天候悪化により、青果関連の価格高騰が続く。野菜も品質が安定せず商品供給に苦しむが、カット野菜などの加工野菜の需要は高まった」(各種商品小売業)、「取引先納入商品の品目増加や原材料単価高等の煽りを受け、顧客への納入単価見直しが昨年より実施されたが、納入単価改正についても概ね賃上げできている」、「原材料価格高騰・生産量減少に値上げのみで対応しているのか」(農畜産物・水産物卸売業)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
9月	▲10.0	▲15.0	△15.3	▲45.4	△26.6
10月	▲19.7	▲10.0	±0.0	▲60.0	±0.0
11月	▲23.6	▲19.0	▲6.6	▲50.0	▲12.5
12月	▲18.3	▲20.0	△18.7	▲47.3	▲18.7
1月	▲15.2	▲19.0	△20.0	▲47.6	±0.0
2月	▲22.2	▲14.2	▲20.0	▲40.9	▲7.1
見通し	▲1.3	△9.5	▲6.6	▲18.1	△14.2

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成30年2月の業況についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22. 2(前月水準▲15. 2)となり、マイナス幅が7. 0ポイント拡大した。

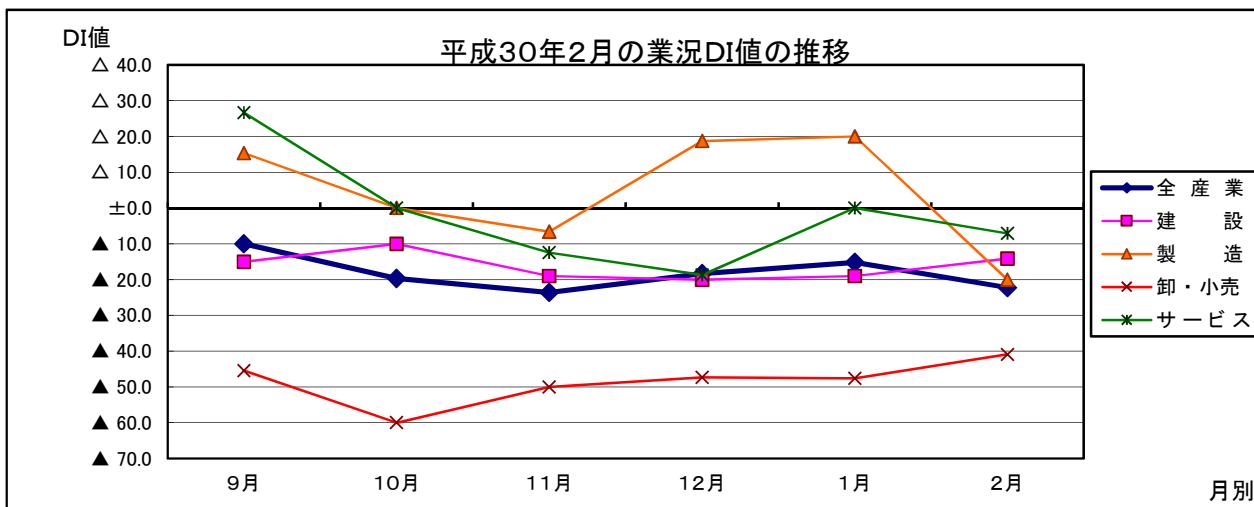
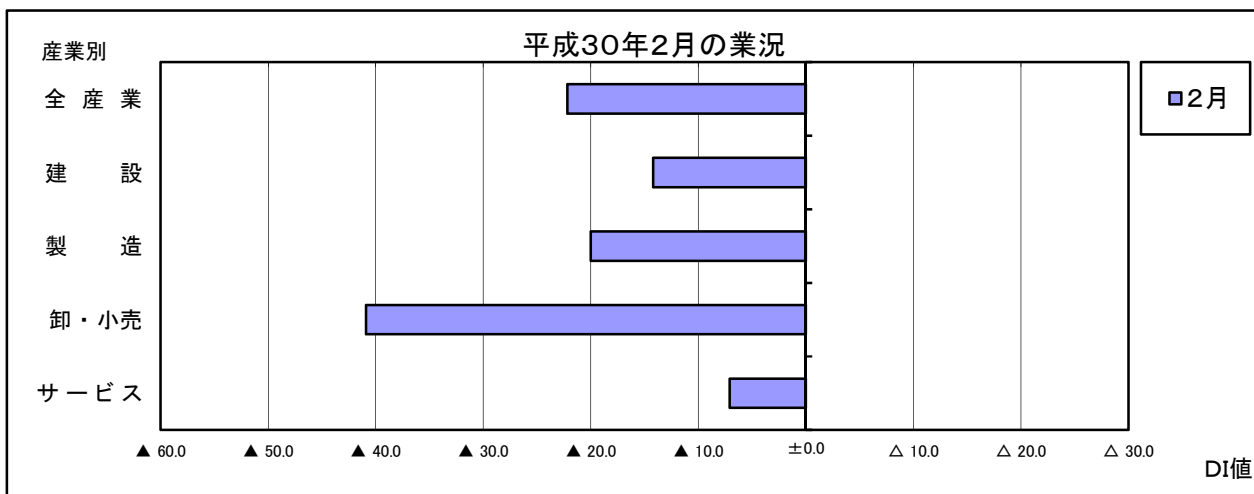
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲40. 9(同▲47. 6)、建設業▲14. 2(同▲19. 0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲20. 0(同△20. 0)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲7. 1(同±0. 0)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲1. 3(前月水準▲8. 3)となり、マイナス幅が7. 0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△14. 2(同±0. 0)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△9. 5(同▲14. 2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲18. 1(同▲33. 3)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲6. 6(同△26. 6)である。

平成30年2月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 9月	10月	11月	12月	平成30年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲10.0	▲19.7	▲23.6	▲18.3	▲15.2	▲22.2	▲1.3(▲8.3)
建設	▲15.0	▲10.0	▲19.0	▲20.0	▲19.0	▲14.2	△9.5(▲14.2)
製造	△15.3	±0.0	▲6.6	△18.7	△20.0	▲20.0	▲6.6(△26.6)
卸・小売	▲45.4	▲60.0	▲50.0	▲47.3	▲47.6	▲40.9	▲18.1(▲33.3)
サービス	△26.6	±0.0	▲12.5	▲18.7	±0.0	▲7.1	△14.2(±0.0)



【平成30年2月の売上についての状況】

○2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.2(前月水準▲6.9)となり、マイナス幅が8.3ポイント拡大した。

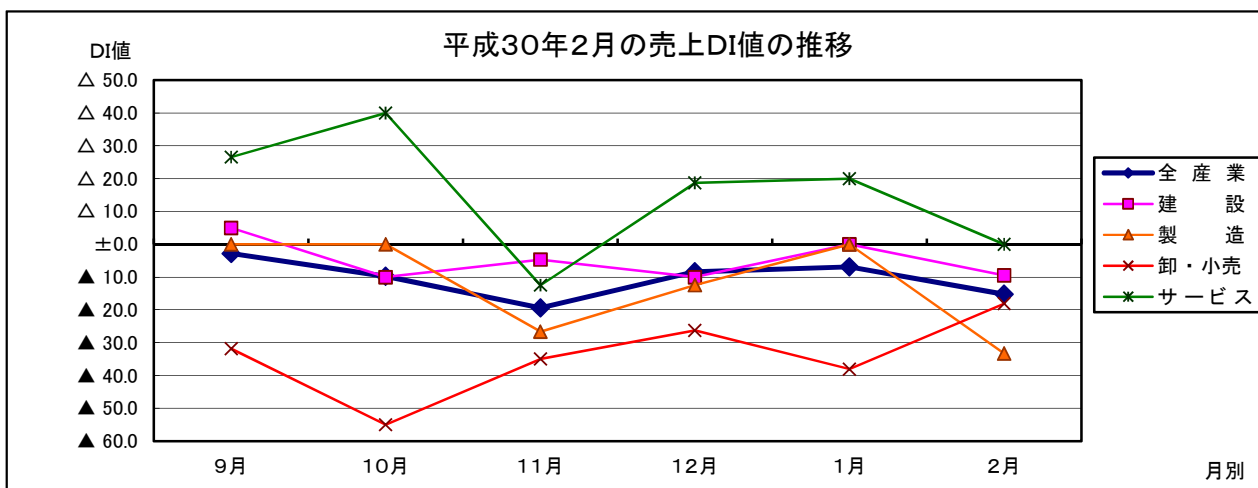
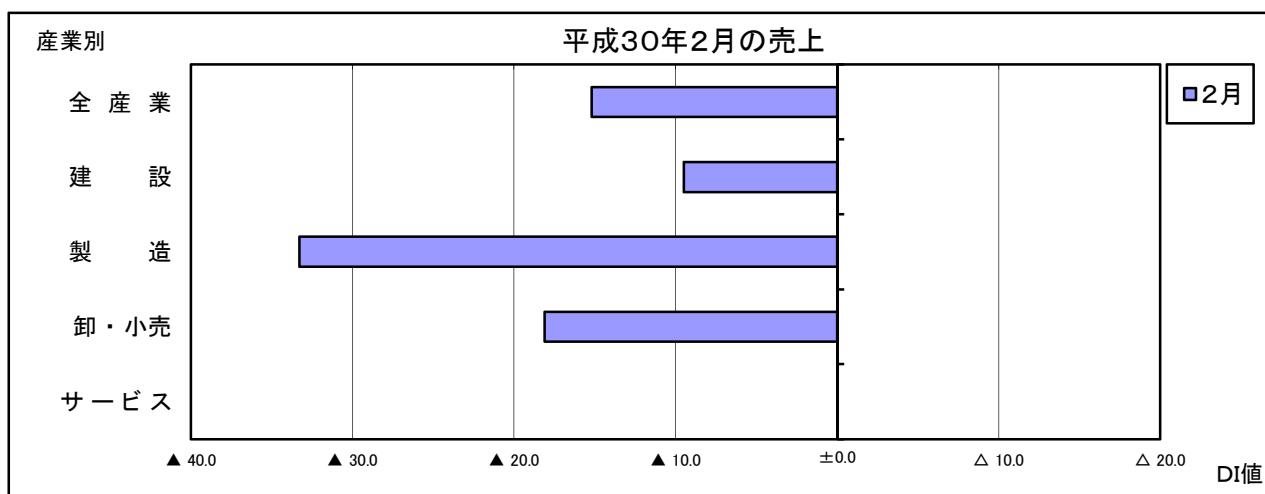
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲18.1(同▲38.0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業±0.0(同△20.0)ある。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲33.3(同±0.0)、建設業▲9.5(同±0.0)である。

○向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、±0.0(前月水準▲4.1)となり、マイナス幅は4.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△9.5(同±0.0)、サービス業△7.1(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲13.6(同▲33.3)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業±0.0(同△26.6)である。

平成30年2月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 9月	10月	11月	12月	平成30年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲2.8	▲9.8	▲19.4	▲8.4	▲6.9	▲15.2	±0.0(▲4.1)
建設	△5.0	▲10.0	▲4.7	▲10.0	±0.0	▲9.5	△9.5(±0.0)
製造	±0.0	±0.0	▲26.6	▲12.5	±0.0	▲33.3	±0.0(△26.6)
卸・小売	▲31.8	▲55.0	▲35.0	▲26.3	▲38.0	▲18.1	▲13.6(▲33.3)
サービス	△26.6	△40.0	▲12.5	△18.7	△20.0	±0.0	△7.1(±0.0)



【平成30年2月の採算についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲26.3(前月水準▲22.2)となり、マイナス幅は4.1ポイント拡大した。

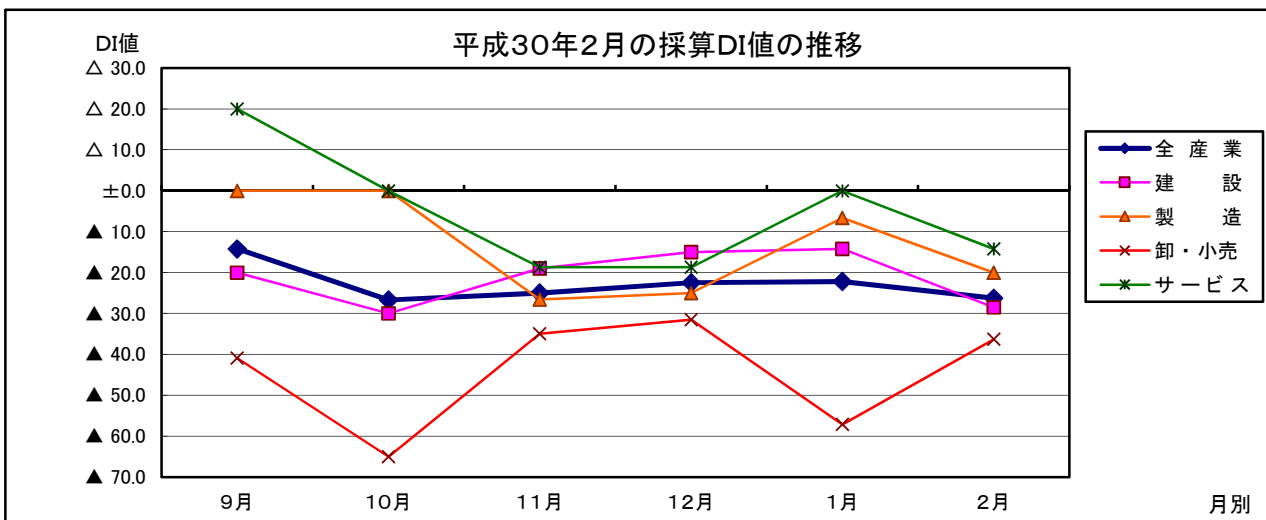
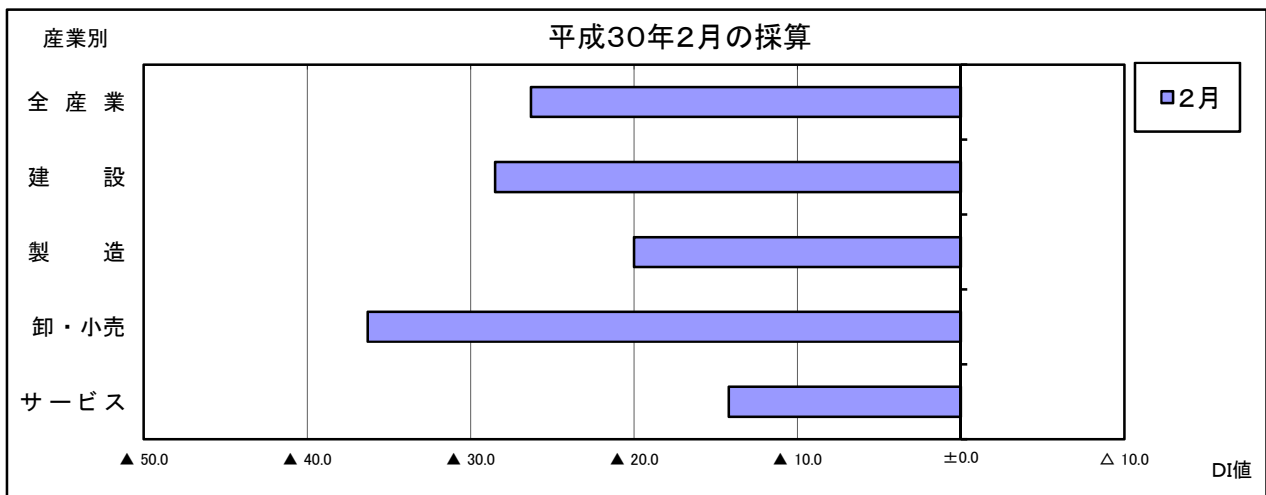
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲36.3(同▲57.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲6.6(同▲25.0)、サービス業±0.0(同▲18.7)、サービス業±0.0(同▲18.7)、建設業▲14.2(同▲15.0)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.7(前月水準▲19.4)であり、マイナス幅が9.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△21.4(同▲13.3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲22.7(同▲57.1)である。変らない見通しの業種は、建設業▲9.5(同▲9.5)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲20.0(同△13.3)である。

平成30年2月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 9月	10月	11月	12月	平成30年 1月	2月	先行き見通し 3月～5月(2月～4月)
全産業	▲14.2	▲26.7	▲25.0	▲22.5	▲22.2	▲26.3	▲9.7(▲19.4)
建設	▲20.0	▲30.0	▲19.0	▲15.0	▲14.2	▲28.5	▲9.5(▲9.5)
製造	±0.0	±0.0	▲26.6	▲25.0	▲6.6	▲20.0	▲20.0(△13.3)
卸・小売	▲40.9	▲65.0	▲35.0	▲31.5	▲57.1	▲36.3	▲22.7(▲57.1)
サービス	△20.0	±0.0	▲18.7	▲18.7	±0.0	▲14.2	△21.4(▲13.3)



【平成30年2月の仕入単価についての状況】

○2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲40.2(前月水準▲44.4)となり、マイナス幅が4.2ポイント拡大した。

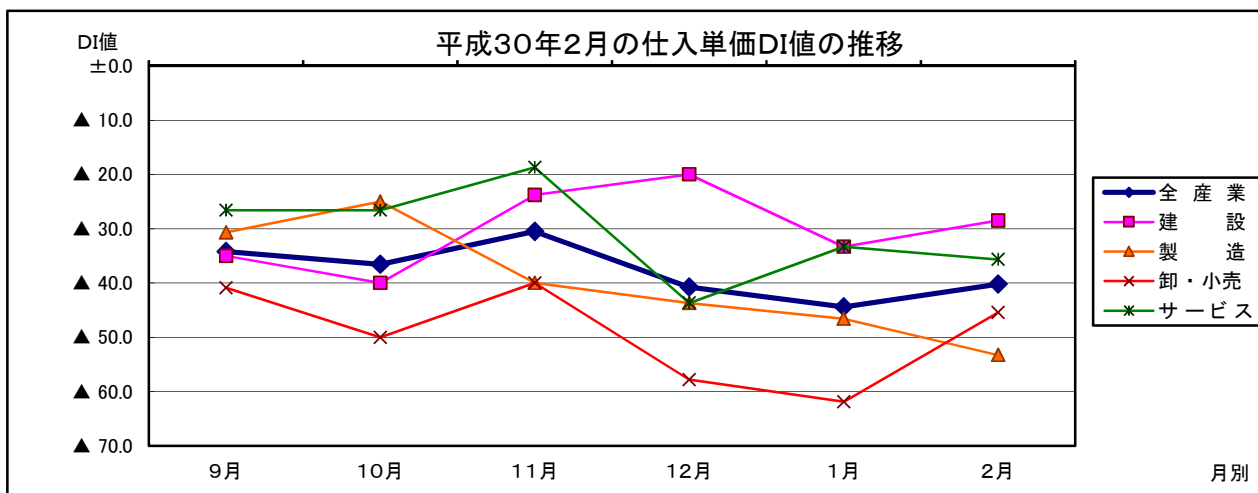
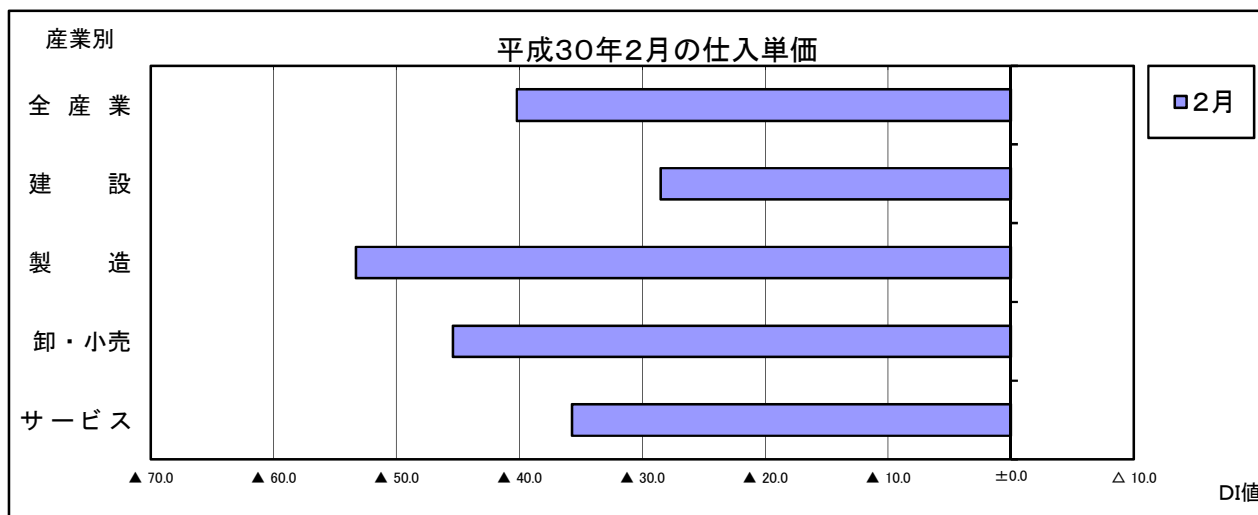
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲45.4(同▲61.9)、建設業▲28.5(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲53.3(同▲46.6)、サービス業▲35.7(同▲33.3)である。

○向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲27.7(前月水準▲33.3)となり、マイナス幅が5.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲14.2(同▲33.3)、卸小売業▲40.9(同▲47.6)、建設業▲28.5(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲20.0(同▲13.3)である。

平成30年2月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 9月	10月	11月	12月	平成30年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲34.2	▲36.6	▲30.5	▲40.8	▲44.4	▲40.2	▲27.7(▲33.3)
建設	▲35.0	▲40.0	▲23.8	▲20.0	▲33.3	▲28.5	▲28.5(▲33.3)
製造	▲30.7	▲25.0	▲40.0	▲43.7	▲46.6	▲53.3	▲20.0(▲13.3)
卸・小売	▲40.9	▲50.0	▲40.0	▲57.8	▲61.9	▲45.4	▲40.9(▲47.6)
サービス	▲26.6	▲26.6	▲18.7	▲43.7	▲33.3	▲35.7	▲14.2(▲33.3)



【平成30年2月の従業員についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△22. 2(前月水準△25. 0)となり、プラス幅が2. 8ポイント縮小した。

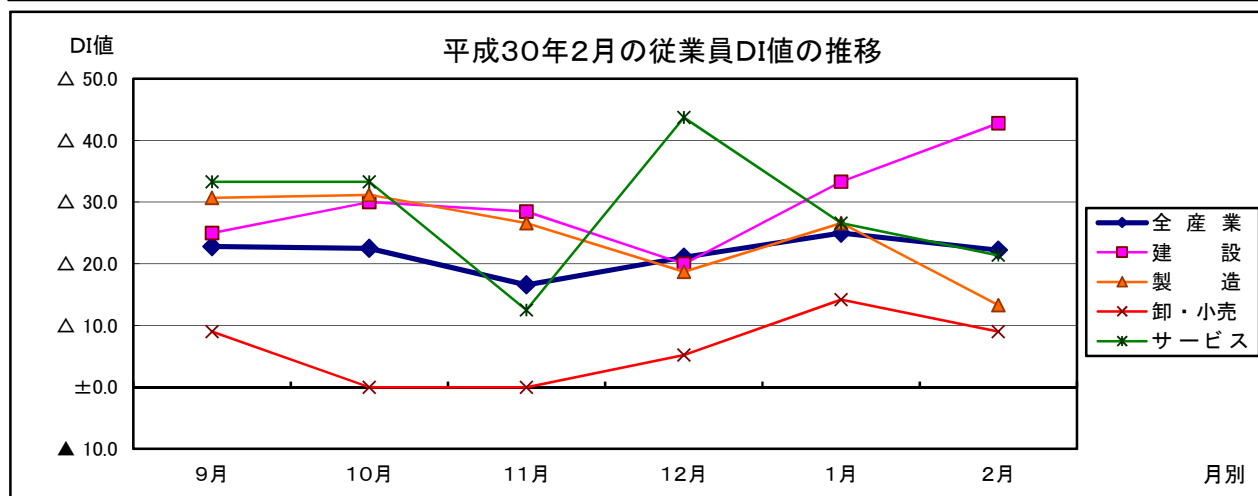
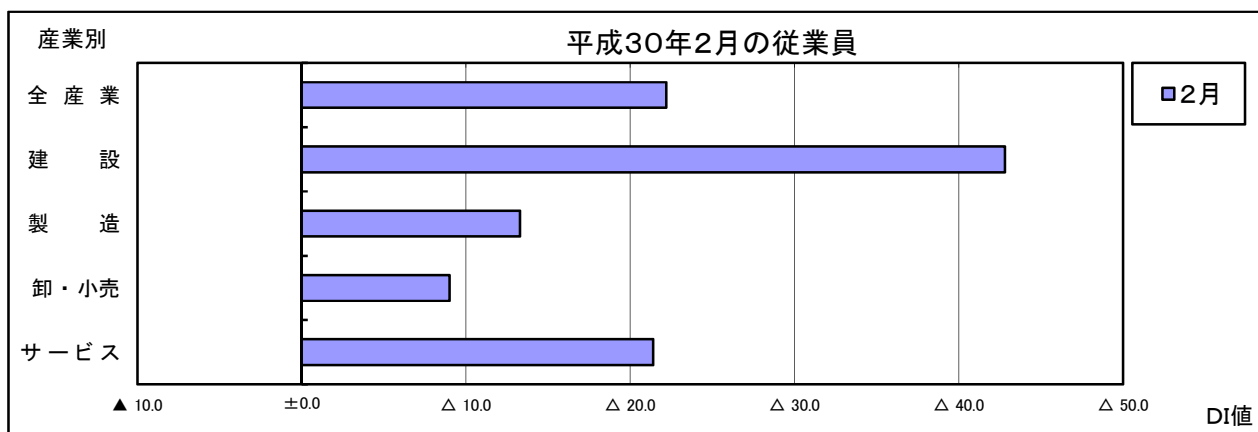
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△42. 8(同△33. 3)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業△13. 3(同△26. 6)、卸小売業△9. 0(同△14. 2)、サービス業△21. 4(同△26. 6)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、△27. 7(前月水準△29. 1)であり、プラス幅が1. 4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△42. 8(同△33. 3)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△26. 6(同△33. 3)、卸小売業△18. 1(同△23. 8)、サービス業△21. 4(同△26. 6)である。

平成30年2月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成29年 9月	10月	11月	12月	平成30年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	△ 22.8	△ 22.5	△ 16.6	△ 21.1	△ 25.0	△ 22.2	△ 27.7 (△ 29.1)
建設	△ 25.0	△ 30.0	△ 28.5	△ 20.0	△ 33.3	△ 42.8	△ 42.8 (△ 33.3)
製造	△ 30.7	△ 31.2	△ 26.6	△ 18.7	△ 26.6	△ 13.3	△ 26.6 (△ 33.3)
卸・小売	△ 9.0	±0.0	±0.0	△ 5.2	△ 14.2	△ 9.0	△ 18.1 (△ 23.8)
サービス	△ 33.3	△ 33.3	△ 12.5	△ 43.7	△ 26.6	△ 21.4	△ 21.4 (△ 26.6)



【平成30年2月の資金繰りについての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11. 1(前月水準▲2. 7)となり、マイナス幅が8. 4ポイント拡大した。

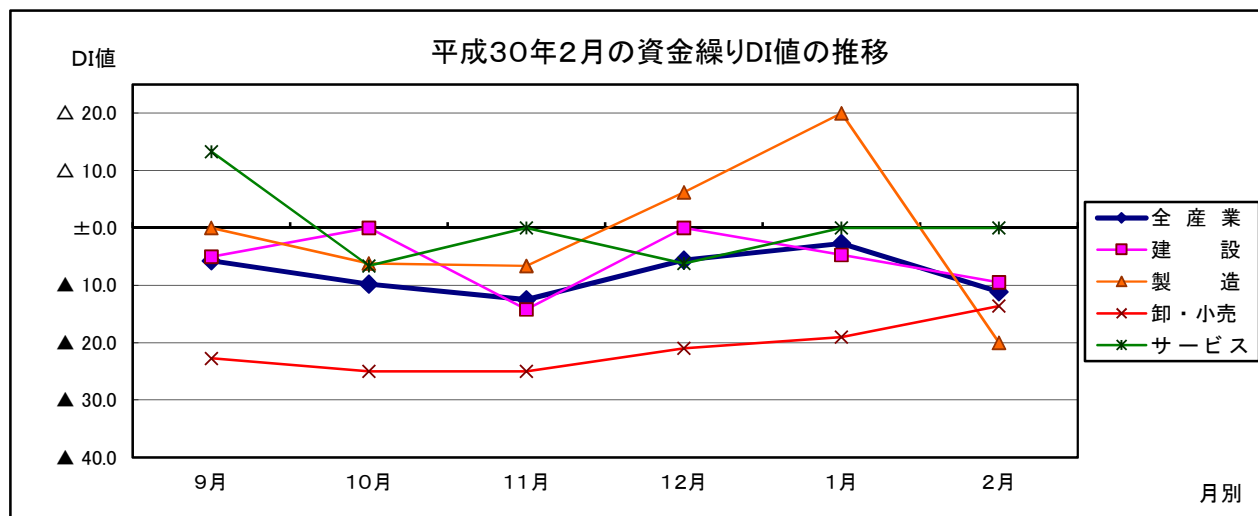
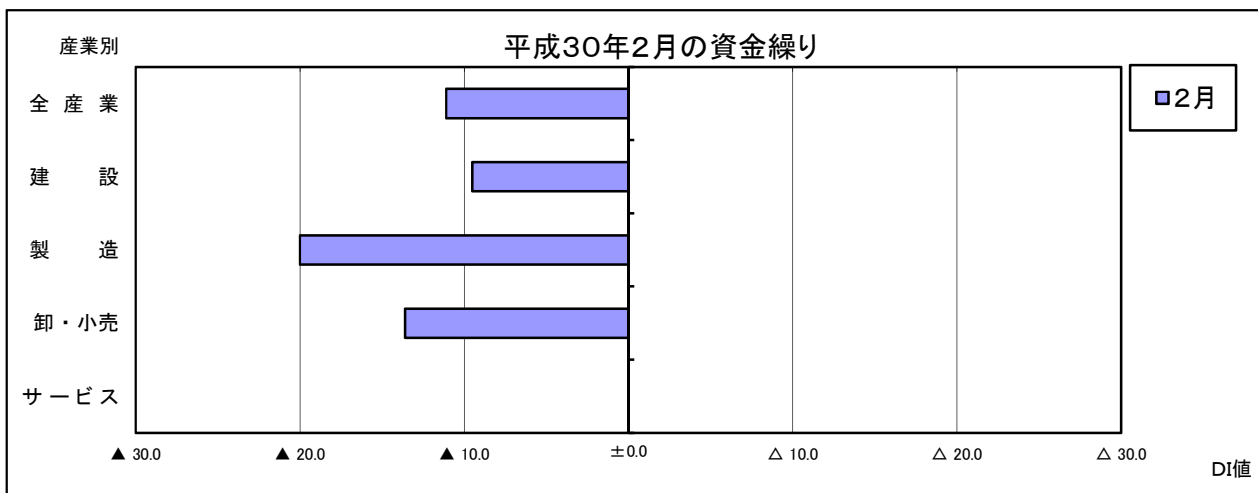
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲13. 6(同▲19. 0)である。変らない業種は、サービス業±0. 0(同±0. 0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲20. 0(同△20. 0)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲9. 5(同▲4. 7)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲1. 3(前月水準▲4. 1)となり、マイナス幅が2. 8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業±0. 0(同▲23. 8)、建設業±0. 0(同▲4. 7)である。変らない見通しの業種は、サービス業±0. 0(同±0. 0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲6. 6(同△20. 0)である。

平成30年2月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成29年 9月	10月	11月	12月	平成29年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲ 5.7	▲ 9.8	▲ 12.5	▲ 5.6	▲ 2.7	▲ 11.1	▲ 1.3 (▲ 4.1)
建設	▲ 5.0	±0.0	▲ 14.2	±0.0	▲ 4.7	▲ 9.5	±0.0 (▲ 4.7)
製造	±0.0	▲ 6.2	▲ 6.6	△ 6.2	△ 20.0	▲ 20.0	▲ 6.6 (△ 20.0)
卸・小売	▲ 22.7	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 21.0	▲ 19.0	▲ 13.6	±0.0 (▲ 23.8)
サービス	△ 13.3	▲ 6.6	±0.0	▲ 6.2	±0.0	±0.0	±0.0 (±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 15.2	±0.0	▲ 26.3	▲ 9.7	▲ 40.2	▲ 27.7	△ 22.2	△ 27.7
建設	▲ 9.5	△ 9.5	▲ 28.5	▲ 9.5	▲ 28.5	▲ 28.5	△ 42.8	△ 42.8
製造	▲ 33.3	±0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 53.3	▲ 20.0	△ 13.3	△ 26.6
卸・小売	▲ 18.1	▲ 13.6	▲ 36.3	▲ 22.7	▲ 45.4	▲ 40.9	△ 9.0	△ 18.1
サービス	±0.0	△ 7.1	▲ 14.2	△ 21.4	▲ 35.7	▲ 14.2	△ 21.4	△ 21.4

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 22.2	▲ 1.3	▲ 11.1	▲ 1.3
建設	▲ 14.2	△ 9.5	▲ 9.5	±0.0
製造	▲ 20.0	▲ 6.6	▲ 20.0	▲ 6.6
卸・小売	▲ 40.9	▲ 18.1	▲ 13.6	±0.0
サービス	▲ 7.1	△ 14.2	±0.0	±0.0

【平成30年2月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設	新規工事よりも改修工事が多い。先行きの見通しは徐々に明るくなっている。	受注増加 先行き好調	電気工事業
	久しぶりに大きな物件が重なり売上増となったが人手が足りず困っている。年度末に向けて毎年忙しい時期だが高齢により引退する人や会社を辞める人も増えている。若い人は建設現場を嫌いなかなか人手不足が解消しない。	人手不足	その他の職別工事業
	いぐさの香りは集中力が上がる効果があるとされていて、畳の部屋で勉強すると集中力がアップ、成績向上との結果を北九州大学森田教授が提唱しています。受験生頑張れ！	畳の効能	内装工事業
	人手が段々足りなくなってきた。募集しても反応なし。	人手不足	その他の職別工事業
製造業	年度末を感じさせない2月3月の売上であった。小さな設備投資は迷わず進めていけるが、大きな設備投資をする仕事量の確保が出来ていない。	売上減少 設備投資	印刷業
	国内外の設備投資が相変わらず堅調なため部品の入手性が依然改善されない。部品収集が不安定な中で生産計画が立てられず苦労している。	仕入困難	その他の機械・同部品製造業
	最近のTV情報で、健康・医療・健康食品等の話題が目につく。経済の流れの関心が生命の守りに向かっているように思える。業種によって影響あり。	健康志向	印刷業
卸小売	買い回り品ではやはり16号線アリオ開店がポディーブローのように効いてきている。松戸の市場跡にイオン系のSCが出来るので光ヶ丘から直線距離で2~3kmしか離れていないので開業したらかなり不安。	大型店の影響	婦人・子供服小売業
	1月以降平年気温より低く、衣料品及び住居防寒関連は冬物在庫が少なくなり、前年を下回る結果となった。食品では昨年から続いている天候悪化により、青果関連の価格高騰が続く。野菜も品質が安定せず商品供給に苦しむが、カット野菜などの加工野菜の需要は高まった。2月イベントのバレンタインは低単価商品を拡大した結果、前年比150%の推移となった。店全体では前年を上回る状況。	天候不順 イベント好調 売上増加	その他の各種商品小売業
	船橋・松戸も駅前大型店が次々閉店。早くそごう跡の情報が欲しい。	大型店の影響	その他の各種商品小売業
	バレンタインはSNSでのPR成果があり昨年より売上増。	イベント好調	菓子・パン小売業
	景況改善の要因として取引先納入商品の品目増加、また原材料単価高等の煽りを受け、顧客への納入単価についても見直しは昨年よりされましたが納入単価改正についても概ね質上げできていることから売上高、採算の増加としています。資金繰りについてはメインバンクをはじめ短期的に借入をすることで仕入れをタイミングよくすることができるようになり好転につながっています。今後景況について危惧される要因としてはメイン顧客をはじめとして弊社の居る柏公設市場の利便性を継続して謳っていけるか、未だ予測していない隙間マーケットに参入していけるか、原材料価格高騰、生産量減少に値上げのみで対応しているのかなどが挙げられます、対策として公設市場全体のPR、社内外でのアイデアを募っての新商品開発やOEM商材の開発に注力していきます。	柏公設市場 仕入高騰	農畜産物・水産物卸売業
サービス業	マクロに見た場合、IT化に沿った生産指数の高騰など大手企業の好調続くも一部企業には労働制の問題(賃金高騰・残業)など受注多く、病(やまい)多しの動きに。金融市場の不安(株安)が消費マインドに連なる動き警戒。市内の飲食店など特色ある内容等特化していかないと。労働制の問題の壁に当たるか？	大手好調 労働問題	投資顧問
	宅配業者の値上げについては、徐々に受け入れられつつあるものの、一般貨物運送における適正な運賃・料金については、運送約款の改正におり附帯業務にも料金設定ができましたが、まだ荷主の理解を得るところまではっていないのが現状である。	運賃改正	一般貨物自動車運送業
	2月になって売買・賃貸ともお客様からの問い合わせは活況です。それに伴い契約数も増えています。物件不足で業者が高値で購入しています。	不動産繁忙期	不動産管理業
	そごうの固定資産税、他人事ながら心配になります。普通なら倒産します。	そごう	不動産賃貸業
	住居系賃貸は現在繁忙期で弊社物件は満室状態をキープ。事業系(テナント)の業績も良好です。賃料については下落圧力も上昇圧力も感じられませんが安定状態といえます。	不動産繁忙期	不動産賃貸・管理業
	人手不足はなお増して深刻な状態続く。働き方改革の影響か！	人手不足	ソフトウェア業
昨年と比べると売上が減っている。今後良くなる事がないと思って経費を見直しています。お客様がお金を使わなくなってきたと思います。	売上減少	旅館業	

平成30年2月CCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.2に対し、「CCI-LOBO」が▲17.1で柏の方がマイナス幅が5.1ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業で10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業であり、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲15.2に対し、「CCI-LOBO」が▲12.6で柏の方がマイナス幅が2.6ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業・サービス業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業で10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲26.3に対し、「CCI-LOBO」が▲19.6で柏の方がマイナス幅が6.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業で10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業であり、建設業・卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲40.2に対し、「CCI-LOBO」が▲41.9で柏の方がマイナス幅が1.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業であり、建設業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業・製造業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△22.2に対し、「CCI-LOBO」が△24.1で柏の方がプラス幅が1.9ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業で10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・サービス業・卸小売業であり、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲11.1に対し、「CCI-LOBO」が▲10.8で柏の方がマイナス幅が0.3ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業・卸小売業であり、サービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業であり、製造業では10ポイント以上悪い。

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(2月速報)

調査期間：平成30年2月13日～19日

調査対象：全国の422商工会議所が3889企業
にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、足踏み。先行きは改善見込むも力強さ欠き、横ばい圏内の動き

2月の全産業合計の業況DIは、▲17.1と、前月から▲2.7ポイントの悪化。記録的な大雪・寒波による客足減少や物流混乱の影響に加え、深刻な人手不足、鉄鋼や農産物などの仕入価格の高止まり、燃料費の上昇が、広く業況の押し下げ要因となった。他方、電子部品や産業用機械、自動車関連の生産、都市部を中心とした再開発、設備投資は引き続き堅調に推移している。中小企業の景況感は、総じて緩やかな回復基調が続いているものの、足踏み状況がみられる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲13.0(今月比+4.1ポイント)と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。消費の持ち直しやインバウンドを含めた観光需要拡大、生産や設備投資の堅調な推移などへの期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響拡大や、原材料費・燃料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、株価急落など不安定な金融市場の影響を懸念す

る声も多く、中小企業の業況感はほぼ横ばいで推移する見通し。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「設備投資を始めとした民間工事の発注量が多く、売上は改善したが、大雪で工事を中止せざるを得ず、工期の延長は避けられない」(電気工事業、「公共工事に一服感が見られ、売上は悪化。鉄鋼などの建設資材価格、人件費や外注費、燃料費等の上昇により採算も悪化した」(管工事業)

【建設業】「設備投資を始めとした民間工事の発注量が多く、売上は改善したが、大雪で工事を中止せざるを得ず、工期の延長は避けられない」(電気工事業、「公共工事に一服感が見られ、売上は悪化。鉄鋼などの建設資材価格、人件費や外注費、燃料費等の上昇により採算も悪化した」(管工事業)

【製造業】「基幹部品の需給逼迫が深刻で、納期にも影響が出ているほか、仕入価格や燃料費の上昇が収益を圧迫している」(電気機械製造業)、「中国や欧州などの外需が好調であるため、売上は改善。最大の課題は深刻化する人手不足であり、今春は賃上げを実施し、人材確保を図

る」(自動車部品製造業)

【卸売業】「野菜の供給不足に伴う価格高騰により、採算が悪化したほか、消費者の買い控えから、販売先の注文数が減少し、売上も悪化した」(農産物卸売業)、「今春の大手メーカーによる業務用酒類の一部値上げを見越した駆け込み需要から、今月の売上は増加した。今後は値上げ実施後の反動減に備える必要がある」(食料・飲料卸売業)

【小売業】「降雪の影響で、来店客数が減少し、売上は悪化。株価の急落など金融市場が不安定なため、今後、ブランド品など高額商品の需要が減少するのではないかと懸念している」(衣料品小売業)、「中国人を中心とした旺盛なインバウンド需要が引き続き好調で、高額化粧品などの販売が伸び、売上は前年比プラスとなった」(化粧品小売業)

【サービス業】「パート・アルバイトの人件費上昇に加え、キャベツなどの農産物価格の高騰が収益の圧迫要因となっている。しばらく価格を据え置いていたが、値上げに踏み切るほかない」(飲食業)、「インバウンドを始めとした観光需要が堅調で、客数・客単価

ともに増加した。だが、人手不足がますます深刻化しており、今後は休館日を増やさざるを得ない」(宿泊業)

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
9月	▲15.3	▲7.4	▲10.1	▲19.2	▲31.4	▲10.8
10月	▲16.0	▲11.4	▲9.3	▲13.1	▲34.6	▲12.8
11月	▲14.9	▲10.0	▲4.2	▲24.3	▲31.7	▲10.9
12月	▲13.3	▲7.4	▲6.7	▲17.4	▲25.8	▲11.5
1月	▲14.4	▲13.6	▲5.1	▲12.2	▲25.2	▲16.1
2月	▲17.1	▲11.4	▲10.1	▲20.8	▲27.3	▲17.9
見通し	▲13.0	▲14.7	▲4.7	▲16.4	▲24.8	▲9.2

柏の景気情報

(2月の調査結果のポイント)

調査期間：平成30年2月26日～3月6日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数72件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
9月	▲10.0	▲15.0	△15.3	▲45.4	△26.6
10月	▲19.7	▲10.0	± 0.0	▲60.0	± 0.0
11月	▲23.6	▲19.0	▲ 6.6	▲50.0	▲12.5
12月	▲18.3	▲20.0	△18.7	▲47.3	▲18.7
1月	▲15.2	▲19.0	△20.0	▲47.6	± 0.0
2月	▲22.2	▲14.2	▲20.0	▲40.9	▲ 7.1
見通し	▲ 1.3	△ 9.5	▲ 6.6	▲18.1	△14.2

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

業況D Iは再び悪化。先行きは緩やかな回復見込むも依然慎重な見通し

2月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.2(前月水準▲15.2)となりマイナス幅が7.0ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲40.9(同▲47.6)、建設業▲14.2(同▲19.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲20.0(同△20.0)で

ある。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲7.1(同+10.0)である。

【建設業】からは、「新規工事よりも改修工事が多い。先行きの見通しは徐々に明るくなっていく」(電気工事業、「いぐさの香りは集中力の上がる効果があり、畳の部屋で勉強すると集中力がアップし、成績向上との結果を北九州大学森田教授が提唱している。受験生頑張れ！」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「年度末を感じさせない売上だった。小さな設備投資は迷わず進めていけるが、大きな設備投資をする仕事量の確保が出来ていない」(印刷業)、「最近、健康・医療・健康食品等の話題が目につく。経済の流れの関心が生命の守りに向かっているように思える。業種によって影響あり」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「買い回り品では16号線アリオ開店がボディブローのように効いている。松戸の市場跡にイオン系S Cが出来るが、光ヶ丘から直線距離で2〜3kmしか離れていないのでかなり不安」(婦人・子供服小売業)、「平年気温より低く、衣料品及び住居防寒関連は冬物在庫

が少なくなり、前年を下回る結果となった。バレンタインは低単価商品を拡大した結果、前年比150%の推移となった。店全体では前年を上回る状況」(各種商品小売業)、「船橋・松戸も駅前大型店が次々閉店。早くそこそこの情報が必要」(各種商品小売業)、「バレンタインはSNSでのPR成果があり昨年より売上増」(菓子・パン小売業)、「資金繰りは短期的に借入をすることで仕入のタイミングをよくすることができ好転につながっている。メイン顧客をはじめとして弊社の居る柏公設市場の利便性を継続して謳っていかねば、未だ予測していない隙間マーケットに参入していけるか等が挙げられ、対策として公設市場全体のPR・社内外でアイデアを募つての新商品開発やOEM商材の開発に注力していく」(農畜産物・水産物卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「マクロに見た場合、IT化に沿った生産指数の高騰など大手企業的好調続くも一部企業には労働制の問題(賃金高騰・残業)など多く、病(やまい)多しの動きに。金融市場の不安(株安)が消費マインドに連なる動き警戒。市内飲食店など特色ある内容に特化していかない。労働制の問題の壁

に当たるか？」(投資顧問)、「宅配業者の値上げは、徐々に受入れられたが、一般貨物運送における適正な運賃・料金については、運送約款の改正で附帯業務にも料金設定ができるが、まだ荷主の理解を得るところまではいっていない」(一般貨物自動車運送業)、「売買・賃貸ともお客様からの問い合わせは活況し、契約の問い合わせは活況し、契約数も増加。物件不足で業者が高値で購入している」、「住居系賃貸は現在繁忙期で弊社物件は満室状態をキープ。事業系(テナント)の業績も良好。賃料については下落圧力も上昇圧力も感じられないので安定状態」(不動産賃貸・管理業)、「昨年と比べると売上が減少したため、今後良くなる事がないかと思つて経費を見直した。お客様がお金を使わなくなつてきた」(旅館業)などのコメントが寄せられた。

【二月の景気キーワード】
◎人手不足
各業種より、「大きな物件が重なり売上増となったが、人手が足りず困っている。年度末に向けて忙しい時期だが、高齢により引退する人や会社を辞める人も増えている。若い人は建設現場を嫌い、なかなか人手不足は解消しない」(職別工事業)、「人手が段々足りなくなつてきている。募集中でも反応なし」(職別工事

業)、「人手不足はなお増して深刻な状態続く。働き方改革の影響か」(ソフトウェア業)との声寄せられた。

◎仕入価格高騰

各業種より、「国内外の設備投資が相変わらず堅調なため部品の入手性が依然改善されない。部品収集が不安定な中で生産計画が立てられず苦労している」(機械・同部品製造業)、「食品は天候悪化により、青果関連の価格高騰が続く。野菜も品質が安定せず商品供給に苦しむが、カット野菜などの加工野菜の需要は高まった」(各種商品小売業)、「取引先納入商品の品目増加や原材料単価高の煽りを受け、顧客への納入単価見直しが昨年より実施された」、「原材料価格高騰・生産量減少に値上げのみで対応しているのか」(農畜産物・水産物卸売業)との声寄せられた。

全国の商工会議所早期景気観調査(CCI-TOBO)との比較
全産業合計では、「柏の景気」が▲22.2に対し、「CCI-TOBO」が▲17.1で柏の方がマイナス幅が5.1ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業で10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業であり、卸小売業では10ポイント以上悪い。